

ディベート 議論の練習のためのゲームです。

1. 1つの論題について話し合う
2. 肯定側否定側に機械的に分けられる
3. 一定のルールに従う
4. 証明された議論を戦わせる
5. 審判によって判定が下される

特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟HPより

ディベートの効能

1. 問題意識を持つようになる。
2. 自分の意見を持つようになる。
3. 情報を選択し、整理する能力が身に付く。
4. 論理的にものを考えるようになる。
5. 相手（他人）の立場に立って考えることができるようになる。
6. 幅の広いものの考え方、見方をするようになる。
7. 他者の発言を注意深く聞くようになる。
8. 話す能力が向上する。
9. 相手の発言にすばやく対応する能力が身に付く。
10. 主体的な行動力が身に付く。
11. 協調性を養うことができる。

Wikipedia ディベートより

論 題

➤ 価値論題：ある事柄に価値が認められるのかどうかを扱う

- メーカー主催のシャンシャン大会は必要である -Benefit of shung shung-
- 医学部地域入学枠は地域医療・医師不足に貢献する

➤ 事実論題：ある事柄が事実（正しい）かどうかを議論する

- 樹状細胞療法は、抗腫瘍効果をもつ
- 邪馬台国は九州にあった

➤ 政策論題：ある事柄が行われるべきか行われざるべきかを扱う

- 消費税を20%にすべきである。是か非か
- 小中学生の留年制度を取り入れるべし。是か非か

構 成

立論

自説を論理つけて説明し、これから行うディベートの論点と論拠を明確にするパート。

尋問（質問）

相手の立論に対しての質疑応答のパート。
目的は、相手の立論の内容で不明確な点があれば、それを明確にすること。

反駁（反論）

立論の中で出てきた論点にそって、議論を深めるパート。相手の議論に対して反駁しない場合は、認めたことになる。

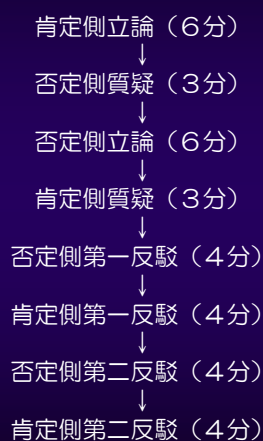
ディベートの基本ルール

1. 非礼行為は慎まなければならない
2. 主張をジャッジに伝えなければならない
3. 時間を守らなければならない
4. 主張には根拠がなければならない
5. 相手の主張に反論しなければならない
6. 反駁で新しい議論を持ち出してはならない

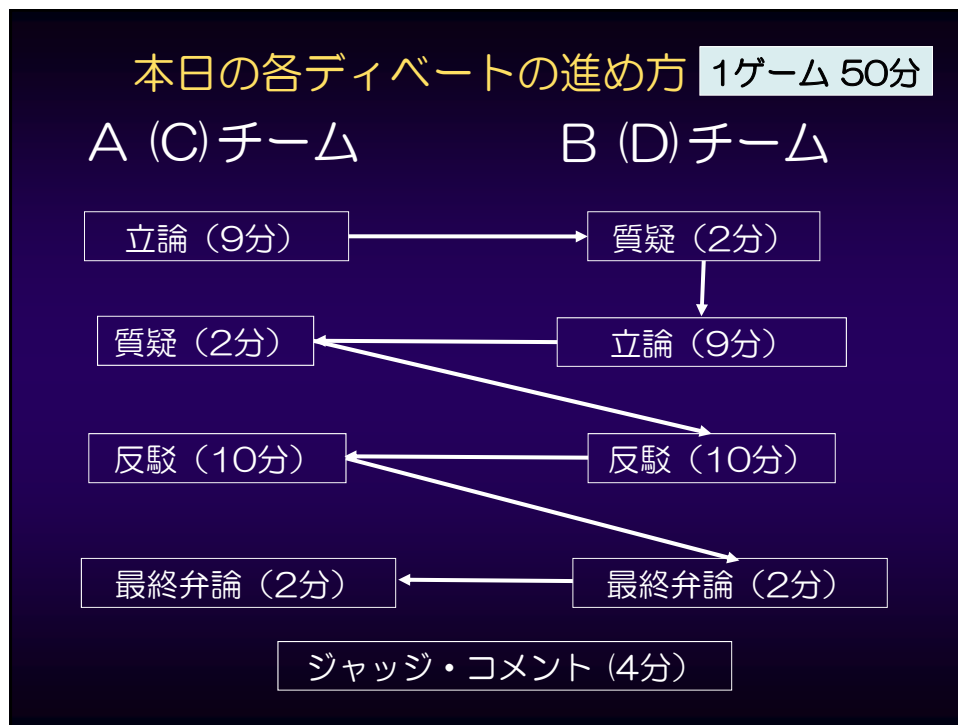
フォーマットの例（競技ディベートの場合）

各スピーチでの持ち時間は、ステージごとに決められています。

・スピーチの順番は以下の通り。



・準備時間が、各スピーチの前に1分ずつ（肯定一駁・否定二駁・肯定二駁の前は2分）与えられる。



Case 1

- 35歳閉経前女性、検診MMGの石灰化を指摘されて、ステレオマンモトームで診断されたホルモン陽性DCISで乳房温存療法 (Bp) を行った、最終病理結果もDCIS、VanNuys:2断端陰性である。子供は3人おり、今後の妊娠・出産の希望はない。

術後はRTのみ vs RT+ ホルモン療法 (具体的に)

A

B

Case 2

- 38歳時、左乳がんで乳房温存術（Bp+SLNB）を施行。T=2.3cm, n:0/2(SLN), ER:8, PgR:3. HER2:3+, 術後FEC X4→weekly taxol x12→TAM+RTを施行した。
- 術後6年（TAM終了後半年）の定期チェックで無症状の肺孤立性腫瘍が発見された（1cm）。腫瘍マーカーは正常

肺の生検→治療法決定 vs 乳がんの肺転移として治療開始（具体的な治療も）

C

D

Case 3

- 60歳、閉経後女性、56歳で左乳がん手術（広範なDCISを伴いBt+SLNB）を施行。T=1.5cm, HG:3, n:0/2, ly(-), V(-), ER:6, PgR:5, HER2:3+, Ki67:40%
- 術後AC followed by Trastuzumab 1Y+LETを施行。術後4年の60歳時に多発肺転移（1cm未満が数個、縦隔リンパ節転移）、腫瘍マーカー（CEA, CA15-3）も上昇。
- 治療は？

抗HER2療法+ホルモン療法〔具体的に〕
vs 抗HER2療法+化学療法（具体的に）

A

C

Case 4

- 58歳、閉経後女性、右乳癌の診断にてBt+AX施行。病理：浸潤性乳管癌（乳頭腺管癌）、t=2.8x2.5x1.2cm, n(+) (4/15), ly(±), v(-), NG1 (核異型度1、核分裂像1), ER8点、PgR8点、HER2 : 0。Ki67=12%。
- 術後薬物療法として本人は「自分にあったもの」を希望している。術後薬物療法として何を勧めるか？ なお術後の胸壁照射は予定している。

化療＋ホルモン療法 vs ホルモン療法のみ

B

D